





ダンボールコンポストの作り方

1. 準備するもの





- ① ダンボール箱・・・底を二重にするか、箱を2個使用するとよい。
(縦 30cm×横 45cm×深さ 30cm 程度：みかん箱等)
- ② ピートモス・・・・10 ㍓以上
- ③ くん炭・・・・・・10 ㍓以上
- ④ かき混ぜるもの・・ゴム手袋・シャベル等
- ⑤ 虫よけ用布・・・・バスタオル等
- ⑥ 台になるもの・・・・角材やビール箱・ダンボール等
- ⑦ その他
 - ・ガムテープ (箱を固定する)
 - ・ゴムバンド (虫よけの布を留めるためのバンド)
 - ・温度計 (温度管理する上で役立つ)
 - ・米ぬかや廃油 (温度が上がらないときに混ぜる)



2. ダンボールコンポストを作る

No.	写 真	説 明
1		<p>ダンボールを重ね合わせる。</p> <p>水気が多い生ごみを使用した場合、底が破れてしまう場合があるため。</p>
2		<p>ピートモスを入れる。</p> <p>今回は、10ℓのピートモスを購入。約半分の5ℓを入れた。 ダンボールの大きさなど勘案して入れること。 (目安は、3分の1程度)</p>
3		<p>くん炭を入れる。</p> <p>今回は、12ℓのくん炭を購入。ピートモス同様に5ℓを入れた。 (目安は、3分の1程度)</p>
4		<p>使用したピートモスとくん炭。</p> <p>ピートモスとくん炭の割合は、3:2 又は 1:1 で混ぜる。</p>

ダンボールコンポストの作り方【伊江村建設課】

No.	写 真	説 明
5		<p>よくかき混ぜる。</p> <p>混ぜた時点で発酵が始まる。 通気性の良い場所で行うこと。</p>
6		<p>生ごみを入れる。</p> <p>生ごみの量の目安は、1日平均 500g。 水はできるだけ切った方が いい。</p>
7		<p>よくかき混ぜる。</p> <p>次のようなものはあまり分解 されない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚や肉の骨 ・貝殻 ・玉ねぎの皮 ・レモンなどの柑橘類 ・卵の殻（砕いて入れるとよい）
8		<p>布を被せて完成</p> <p>布は、虫よけである。 被せる布は、常に同じところを 表にすること。 1～2週間で温度が40度近く まで上昇する。 上昇しない場合は、米ぬかや廃 油をコップ一杯入れるとよい。</p>

※最初の2・3日は、生ごみを多めに入れると分解が早く進む。

ダンボールコンポスト(完成したら)

No.	写 真	説 明
1		<p>3 か月間生ごみの投入を続けた。</p>
2		<p>約3カ月間で分解が遅くなってきたら、基材の能力限界なので、生ごみの投入をやめる。 この後、熟成させる。</p>
3		<p>熟成は、畑の土（黒土）などと混ぜて、1 ヶ月ほど寝かせて完成。堆肥として使用できる。</p> <p>この使用済みの基材を次のダンボールコンポストに少し混ぜると、分解が早く進む。</p>
参 考		<p>生ごみが少ない場合などは、左の容器などに溜めてから混ぜてもよい。 ただし、腐った生ごみは入れないように注意しよう。</p> <p>※ペットボトルは、容器の大きさを判断するため撮影してあります。</p>